



走り続けたその軌跡 第46回東和ロードレース大会

「福島の中中で、どんなレースを
どんな人たちがどんな運営でしているのか」

元日本陸上競技連盟事務局次長であった故石田芳正氏は、昭和48年にマラソンの月刊誌を見てそう思い、妙に心引かれて第4回大会に出場して以来、第37回大会までほぼ毎回出場しました。それは、手作りの前夜祭、レース運営、初夏の田舎の風景、心温かいまちの人たちに触れたことで、いっぺんにこの大会の魅力にとりつかれたからです。



招待選手 野口みずき 選手(シスメックス所属)

今大会には、2004年アテネオリンピック女子マラソンの金メダリストで、フルマラソンのアジア記録保持者である野口みずき選手が出場しました。

野口選手は、小学生の各部門の子どもたちと一緒に走り、時にはコースを引き返しながらい子どもたちに声を掛けて走っていました。

昭和45年の第1回大会の参加人数はわずか120人。参加部門数に違いがあるとはいえ、今大会の参加人数は4,040人にまで増えたこの大会。今年も自分の闘いに挑戦しようとする参加者たちがアジサイロードを駆け抜けました。

